

# 長野市総合計画審議会作業部会 会議概要（報告）

会議名	市民フォーラム21 第6回 教育・文化部会
日時	平成23年1月19日（水）午後3時から午後4時50分
会場	長野市役所第一庁舎8階第一委員会室
出席者	作業部会員 （敬称略）
	関係課員

## I 会議次第

- 1 開会
- 2 部会長あいさつ
- 3 市民フォーラム21 第5回 教育・文化部会 会議概要について 別添資料
- 4 第四次長野市総合計画 後期基本計画大綱（案）【教育・文化分野】について
  - (1) 第四次長野市総合計画 後期基本計画の体系（案）
    - 4** 心豊かな人と多彩な文化が輝くまち【教育・文化分野】 《資料1》
    - (2) 政策4-1 次世代を担う人材の育成と環境の整備
      - 411 魅力ある教育の推進 《資料2》
      - 412 家庭・学校・地域の連携による教育力の向上 《資料3》
    - (3) 政策4-2 豊かに学びあう社会の形成
      - 421 活力ある地域を創る生涯学習の推進 《資料4》
    - (4) 政策4-3 ゆとりと潤いを感じる多彩な文化の創造と継承
      - 431 多彩な文化の創造と文化遺産の継承 《資料5》
    - (5) 政策4-4 躍動する生涯スポーツの振興と競技力の向上
      - 441 スポーツを軸としたまちづくりの推進 《資料6》
    - (6) 政策4-5 地域から広がる国際交流の推進
      - 451 国際化の推進 《資料7》
  - 5 今後の予定について
  - 6 閉会

## II 会議の概要（主な決定事項、質疑等）

- 4 第四次長野市総合計画 後期基本計画大綱（案）【教育・文化分野】について
  - (1) 第四次長野市総合計画 後期基本計画の体系（案）
    - ①施策431-01における「芸術文化」の表現について、平成21年に制定した「長野市文化芸術及びスポーツの振興による文化力あふれるまちづくり条例」に合わせ「文化芸術」に改めることで了承を得た。また、基本構想には、「芸術文化」という表現が残るが、今後、後期基本計画では、「文化芸術」の表記で統一をし、意味合いは同じとして今後使用することについて確認した。
  - (2) 政策4-1 次世代を担う人材の育成と環境の整備
    - ①資料2ページ、基本施策、現況と課題欄の学校規模の「格差」という表現が、学校間におけ

る教育の格差を指摘しているような印象があり、別の表現が適当でないか。

⇒ 学校規模と言いながら、児童・生徒数なのか、教育水準なのか、含みを持たせた表現になっており、文章がわかりにくいので例示を入れるなど表現に工夫が必要。

⇒ 児童・生徒数が少ない小規模校では、例えば、多様な部活動を編成できないなどの課題があり、こうしたものが学校規模による格差として言えるのではないか。

⇒ 「年少人口が減少する中、学校の児童・生徒数に差が生じており、適切な対応が求められています。」と改めることとする。

②資料3 ページ、施策 411-02 小・中学校の教育の充実、大綱まとめて整理した主な取組（参考）中、「体験交流や体験学習の教育活動への積極的な活用」は表現がわかりにくい。

⇒ 「体験交流や体験学習の積極的な活用」に改めることとする。

③資料6 ページ、基本施策、現況と課題の「家庭の教育力を向上する必要があります」という表現について、「家庭の教育力の向上が求められています」と改めてはどうか。

⇒ ご指摘のとおり、修正することとする。

### (3) 政策4-2 豊かに学びあう社会の形成

①資料8 ページ、基本施策、基本方針に書かれている「だれもがいつでもどこでも」という表現を現況と課題にも書けば、市民にわかりやすいのではないか。

⇒ ご指摘の点は、「多様なニーズ」に含まれると理解としたい。

②全体的に横文字（カタカナ表記）が多く、高齢者等が読んだときにはわかりにくいので、日本語で表記することはできないか。

⇒ 無理して日本語に訳すことで、ニュアンスの違うものもあり、違和感が残るのではないか。わかりにくいものは、注釈をつけるなど、現行のとおりでよいのではないか。

### (4) 政策4-3 ゆとりと潤いを感じる多彩な文化の創造と継承

①施策 421-02 学習成果の活用と地域づくりへの参加、主な取組中、「生涯学習活動発表の場（市民アトリエ（創造館）の確保）」については、発表の場だけでなく、創作活動の場を確保したい意味もある。「生涯学習活動への参加の場（市民アトリエ（創造館）の確保）」と変更してはどうか。

⇒ ご指摘のとおり、修正することとする。

②資料10 ページ、基本施策4-3-1 多彩な文化の創造と文化遺産の継承の方針中、「文化の薫りあふれるまち」は、平成21年に制定した「長野市文化芸術及びスポーツの振興による文化力あふれるまちづくり条例」を引用し「文化力あふれるまち」としてはどうか。

⇒ ご指摘のとおり、修正することとし、「文化力」に条例の前文を要約して、次のとおり注釈をつけることとする。

#### 文化力

人生をより豊かにする力、世代を超えた喜びや感動をもたらす力、人々の心のつながりや連帯感を形成する力など様々な力があり、これらの力を「文化力」とする。（長野市文化芸術及びスポーツの振興による文化力あふれるまちづくり条例の前文から要約）

### (5) 政策4-4 躍動する生涯スポーツの振興と競技力の向上

①スポーツの価値や意義について、別紙（案）のとおり、注釈をつけることを事務局から提案したところ、了承された。

②スポーツ環境の基盤には、スポーツの意義や価値が社会に浸透、理解されていることが重要で、計画に表現されることは良い。

③資料13 ページ、施策 441-01 生涯スポーツの振興、主な取組中、「子ども達」の表現は「子どもたち」と表現を統一してはどうか。

⇒ ご指摘のとおり、修正することとする。

(6) 政策4-5 地域から広がる国際交流の推進

①資料14 ページ、基本施策の方針で「文化や価値観」という表現について、「価値観」は「文化」に含まれるのではないかと。現況と課題で、「文化・習慣」とあるが、「習慣」も「文化」に含まれるのではないかと。

⇒ 文化という言葉にまとめると具体的な内容が見えにくい。生活様式の違いなど、互いに違う文化を共生する意味が含まれれば、良いのではないかと。

⇒ 基本方針の「文化や価値観を尊重」のうち「や価値観」を削除することとし、現況と課題の「国籍・文化・習慣など」は「国籍・言語・習慣など」に改めることとする。

以上の議論を踏まえ、教育・文化部会として、教育・文化分野の大綱（案）を決定した。

## スポーツ活動の意義や価値

スポーツはその活動自体、体を動かすという人間の本源的な欲求にこたえ、爽快感、達成感、他者との連帯感等の精神的充足や楽しさ、喜びをもたらすという内在的な価値を有する。このため、生涯にわたり主体的にスポーツを親しむことのできる地域社会をつくることは幅広い世代の人々にとって大きな意義のあるものである。

また、スポーツは、社会的に次のような多様な意義を有しており、少子高齢化を迎え、様々な課題に対峙しなければならない我が国にとって、スポーツの振興は、従前にも増して国や地方公共団体、スポーツ団体の重要な責務となっている。

- 1 コミュニケーション能力やリーダーシップの育成、克己心やフェアプレイ、チームワークの精神の涵養等、自然体験活動を通じた豊かな人間性の育成により、青少年の心身の健全な発達に資する。
- 2 スポーツを通じた交流は、地域の一体感や活力を醸成し、人間関係の希薄化等の問題を抱える地域社会の再生につながる。
- 3 スポーツ振興によるスポーツ産業の広がりや、新たな需要と雇用を生み、我が国の経済成長に資するとともに、スポーツによる国民の心身の健康の保持増進は、医療・介護日削抑制等の経済的効果を生む。
- 4 スポーツの国際交流は、言語や生活習慣の違いを超え、同一のルールの下で互いに競い合うことなどにより、世界の人々との相互の理解を促進し、国際的な友好と親善に資する。
- 5 国際競技大会などにおける日本人選手の活躍は、我々に日本人としての誇りと喜び、夢と感動を与え、国民の意識を高揚させ、社会全体の活力となるとともに、国際社会における我が国の存在感を高める。

(以上、スポーツ立国戦略 スポーツコミュニティ・ニッポン 平成22年8月26日 文部科学省 から抜粋)

### 【まとめ (案)】

#### スポーツ活動の意義や価値

スポーツはその活動自体、体を動かすという人間の本源的な欲求にこたえ、爽快感、達成感、他者との連帯感等の精神的充足や楽しさ、喜びをもたらすという内在的な価値を有する。生涯にわたり、主体的にスポーツを親しむことのできる地域社会をつくることは、青少年の心身の健全な発達、人間関係の希薄化等の問題を抱える地域社会の再生、国際的な友好と親善など、社会全体の活力につながり、幅広い世代の人々にとって大きな意義のあるものである。(出典：スポーツ立国戦略 平成22年8月26日 文部科学省から要約)